Bulletin of Aichi Univ. of Education, 63（Humanities and Social Sciences）, pp. 93 − 102, March, 2014

「V着」と〈Vテイル〉の対照研究（二）

時 衛国

外国語教育講座

A Contrastive Study of “Verb + Zhe” and “Verb + Teiru” (II)

Weiguo SHI

Department of Foreign Languages, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

1. はじめに

中国語の「着」と日本語の〈テイル〉[1]はアスペクトを表わす接辞として、いずれも量的語句と共起して動的状態と静的状態の持続を捉えることができる[2]。たとえば、

(1) 跑着一辆(车)。((車が)一台走っている)[3]
(2) (車が)一台走っている。
(3) ×跑着两圈。(「二周走っている」の意)
(4) もう(グランドを)二周走っている。

「着」は(1)では「跑(走る)」という動的状態について、量的語句「一辆」と共起して走行中の車の台数を捉えている。しかし、周数を表わす語句「两圈」とは共起することができないので、(3)は成立しない。それに対し、〈テイル〉は(2)(4)のように、台数を表わす「一台」とも周数を表わす「二周」とも共起することができるので、「着」とは違っている。

このように見ると、両語は共通点もあれば、相違点もあると考えられる。両語は動的状態の運動過程の各局面と静的状態を捉える時には、どのような量的語句と共起し、どのような量的語句と共起できないのか。そして、量的語句は「着」と〈テイル〉に対しどのような意義を付与し、どのような制限をもたらすのか。本研究では「着」と〈テイル〉の量的語句との関係について考察することとする。

2. 先行研究

中国語の「着」についての研究はこれまで多くの研究がなされ成果も見られる。たとえば、《现代汉语虚词例释》1982、吕叔湘主编1984、费春元1992、戴耀晶1994・1997、李宇明2000、刘一之2001、金立鑫2004、石毓智2006、王学群2007、张黎2012、三宅登之2013などがそれである[4]。しかし、これらの研究は、「着」の基本的用法や意味機能などについては述べているが、「着」と量的語句との関係については注目してないようである。

马庆株1998では、動詞と時間量を表わす語句との関係について、「動詞と時間量を表わす語句とは互いに制約しあった関係にあり、この制約の関係は、また時間量を表わす目的語あるいは時間量を含有した連体修飾語を用いる時、動詞の後に接尾辞の「着」が付けられないことからも言える」と指摘されている(同P 146〜147)。この指摘は重要であるが、しかし、もっと説明が必要だと思う[5]。また、「着」は時間量を表わす目的語あるいは時間量を含有した連体修飾語の他、概略の数量・程度や動作の回数や物の数量などを表わす語句と共起することができるかどうかについてはあまり言及されていない。要するに、「着」と各種の量的語句との関係については、まだ明らかにされていないので、考察することの必要性を痛感している。

日本語の〈テイル〉についても多くの研究成果の蓄積がある。たとえば、金田一春彦1950、寺村秀夫1973、鈴木重幸1976、藤井正1976、吉川武時1976、奥田靖雄1977、小矢野哲夫1977、工藤真由美1982、仁田義雄1982、森山卓郎1982、矢沢真人1985、吉田茂晃1989、吉川妙子2012、江田すみれ2013などが挙げられる[6]。またこれらの研究は、いずれも〈テイル〉の基本的意味、派生的意味やその意味機能・文法的特徴及び〈テイル〉による動詞分類などについて、様々な観点から考察されている。しかし、〈テイル〉と量的語句との関係についてはあまり触れていない。一方、小矢野哲夫1977、工藤真由美1982は〈テイル〉と数量詞との関係についてはそれぞれ言及しているものの、詳しく考察しているわけではない。

小矢野哲夫1977は、「走ル」を中心にアスペクトとテンスについて考察し、各局面の持続を表わすその働きについて、「彼は五時から走り終わってしまっている」「彼は五時には走り終わってしまっている」のように、〈テイル〉は起点格と時点格と共起することができると

述べているが、しかし、時間、数量、距離、回数を表わす語句と共起するかどうかについてはほとんど言及していない[7]。工藤真由美1982は「たたく、撲る、飲む、読む」など、客体がどう変化するかを問題としない動詞や、また「歩く、動く」など主体のうごきを基本的にとらえている動詞について、動作量＝変化量を規定する修飾語がつくと、動きそのものではなく、運動の量的変化を問題としつつ、「変化の結果の継続」を表わすようになると述べている(p 62～63)。氏の論文は〈テイル〉には動作の継続と変化の結果の継続[8]の二つの用法があり、動作の継続を表わす動詞が動作量＝変化量を規定する修飾語がつくと、変化の結果の継続を表わすようになるとして、動作量＝変化量を規定する修飾語によって、意味・用法の変化がもたらされるということを述べている。ただ、動詞が具体的にどのように量的語句と共起するのかについては述べていない。

以上をまとめてみると、「着」と〈テイル〉における動的状態と静的状態の持続[9]を捉えることのできるその意味機能や文法的特徴などについては述べられている。しかし、動的状態や静的状態を捉える時に、持続中の状態における数量・程度・距離・回数などを捉えることができれば、その状態における様々な様相を認識することができるし、両言語の持続中の状態における量的語句が動的状態と静的状態に対し、どのような役割と制限を持っているのか、なぜなのかが分かってくるのではないかと思われる。しかし、これまでの研究ではこの点についてはあまり考察されていない。

3. 分析

運動過程を含む動詞を捉える時には、その運動自体への把握であるが、運動過程を含まない動詞を捉える時には、その運動自体ではなく、単なるその結果への把握と考えられる。その運動自体への把握とその結果への把握は異質なものである。本研究では、運動過程を捉える時には動的状態の持続、そして結果を捉える時には静的状態の持続とする。「着」と〈テイル〉をつけると、どのタイプの動詞であっても、状態化されることになるので、動的な性格にせよ静的な性格にせよ、状態が持続しているという点に重点が置かれている。

中国語と日本語には、物の数量・動作や行為の時間・回数・程度などを表わす量的語句がある。これらの量的語句は一般文法分類においては数量詞(「一辆/一台」「一小时/一時間」など)とされるものもあれば、名詞(「一半/半分」など)とされるものと副詞(「少し」「ちょっぴり」など)とされるものもあり、いずれも持続中の動的状態と静的状態を捉えるのに用いることができる。本研究では、このような物の数量・動作や行為の時間・回数・程度などを表わす語句を一括して量的語句と呼ぶこととする。

そして、これら中国語と日本語における量的語句は、大体の物の数量を表わすもの(「一辆车/一台の車」など)、程度を表わすもの(「一点/少し」など)、回数を表わすもの(「一次/一回」など)と時間を表わすもの(「一小时/一時間」など)の四つに分類することができる。以下、これらの量的語句がどのように「着」と〈テイル〉と共起して持続中の動的状態と静的状態を捉えるのかについて考察する。

3.1. 物の数量との共起

「着」と〈テイル〉は物の数量を表わす量的語句と共起することができるという点では全く共通している。

(5) 跑着一辆(车)。((車が)一台走っている)〈＝(1)〉
(6) (車が)一台走っている。〈＝(2)〉
(7) (灯)灭着几盏。((灯が)何個か消えている)
(8) (灯が)何個か消えている。

中国語では、「一辆(一台)」「一把(一本)」「一个(一つ)」「一件(一着)」「一扇(1枚)」などの語句は、「一辆车(車一台)」「一把伞(傘一本)」「一个包(かばん一つ)」「一件毛衣(セーター一着)」「一扇门(扉1枚)」のように、「量的語句＋名詞」というフレーズで用いることができる他、また、(5)のように、「跑着一辆车(車一台が走っている)」「拿着一把伞(傘を一本持っている)」「挎着一个包(かばんを一つ掛けている)」「穿着一件毛衣(セーターを一着着ている)」「开着一扇门(扉を1枚開けている)」のように、「V着＋量的語句＋目的語」という構造で用いることもできる。(5)は(車が)一台走っているということを表わすが、(7)は(灯が)何個か消えているということを表わす。

「着」はこの場合、動的状態と静的状態における数量的な状態の持続を捉え、「一辆(一台)」「几盏(何個)」などの語句があるにしても、持続を捉えるその働きはそれによって影響されないものと考えられる。このような物の数、対象物の数量を表わす語句は「一辆＋车(車一台)」「几盏＋灯(灯何個)」などのように、よく名詞と共起して「量的語句＋名詞」というフレーズを作った上で、「V着＋量的語句＋目的語」という構造に用いられることになる。そして、この構造における目的語はまた動詞の前に来て、「主語＋V着＋量的語句」のように主語に立つこともできる。例えば、「车跑着一辆(車は一台走っている)」「伞拿着一把(傘は一本持っている)」「包挎着一个(かばんは一つ掛けている)」「毛衣穿着一件(セーターは一着着ている)」「门开着一扇(扉を1枚開けている)」などがそれである。この場合は目的語を取り立てて強調するものと思われる。

日本語では、〈一台〉〈一本〉〈一個〉〈一着〉〈一枚〉などの物の数を表わす語句は、「車を一台走しらせている」[10]「傘を一本持っている」「かばんを一つ掛けている」

「セーターを一着着ている」「扉を1枚開けている」のように、「目的語(ヲ)＋量的語句＋動詞＋テイル」という構造に用いることができるし、また、「車は一台走っている」「傘は一本持っている」「かばんは一つ掛けている」「セーターは一着着ている」「扉は1枚開けている」のように、「主語(ハ)＋量的語句＋動詞＋テイル」という構造に用いることもできる。(6)を例にして見れば、一台の車が走行中という動的状態を捉えており、その状態の持続を客観的に描写している。一方、「車は一台走っている」という場合は、係助詞の〈ハ〉によって、車が一台走行中という動的状態を説明的に述べており、その状態の持続を強調しているものと考えられる。〈一台〉という量的語句は走行中の車の台数として用いられており、その状態の持続に伴われるもの(車)の数量を表わしている。すなわち、走行している物の数量を明示している。物の数量は文字通りその物を修飾したりそれによって修飾されたりする性質があり、その動的状態自体を制限する属性が備わっていないと言える。この点では中国語と全く共通している。

一方、量的語句は主語や目的語の後に来て、「車一台が走っている」「傘一本を持っている」「かばん一つを掛けている」「セーター一着を着ている」「扉1枚を開けている」のように、「主語＋量的語句＋ガ＋Vテイル」或いは「目的語＋量的語句＋ヲ＋Vテイル」という構造に用いることができる。「車一台が走っている」の場合は「主語＋述語」という構造になっており、「傘一本を持っている」の場合は「目的語＋述語」という構造になっている。主語や目的語の後に来る量的語句はその主語や目的語の一部として捉えられ、動作・行為が関与した物の数量を示している。「一台の車が走っている」「一本の傘を持っている」の場合は、それぞれ「量的語句＋ノ＋主語」「量的語句＋ノ＋目的語」の構造で、〈一台〉〈一本〉は連体修飾語として用いられ、主語や目的語の数量を特定する働きを持っている。「車が一台走っている」「傘を一本持っている」の場合は、〈一台〉〈一本〉はそれぞれ連用修飾語として量的に述語が係る対象物を制限していると考えられる。そして、「車一台が走っている」「傘一本を持っている」の場合は、物の数量を端的に強調することができる。この場合は、「主語＋量的語句」か「目的語＋量的語句」の構造でもって数量概念を内包した名詞的フレーズを作っていると考えられる。

中国語では量的語句は、「??跑着车一辆(「車一台が走っている」の意)」「??拿着伞一把(「傘一本を持っている」の意)」「??挎着包一个(「かばん一つを掛けている」の意)」「??穿着毛衣一件(「セーター一着を着ている」の意)」「??开着门一扇(「扉1枚を開けている」の意)」などのように、「V着＋目的語＋量的語句」という構造に用いることができない。量的語句は名詞の後に来て、「名詞＋量的語句」の構造で、「车一辆(車が一台)」「伞一把(傘が一本)」「包一个(かばんが一個)」「(毛衣一件(セーターが一枚)」「门一扇(扉が一枚)」のように用いることができるが、ただ「V着」によっては捉えることができない。中国語では前述の通り、通常「V着＋量的語句＋目的語」の構造で用いられ、量的語句は「V着」によって捉えられると同時に、目的語に関わるものと考えられる。この点では、日本語の量的語句と少し違っている。

3.2. 概略の程度との共起

「着」〈テイル〉は動作の程度を表わす語句と共起することができるという点で共通している。

(9) 开着{一道缝儿/一点儿}。(ドアを{ちょっぴり/少し}開けている)
(10) ドアを{ちょっぴり/少し}開けている。
(11) 开着{一半/一多半}门。(ドアを{半分くらい/半分以上}開けている)
(12) ドアを{半分くらい/半分以上}開けている。

「着」は「一道缝儿(僅かな隙間)」「一点(ほんの少し)」「一半(半分)」「一多半(半分以上)」などの語句と共起し、ドアが開けられている程度の大小を描写することができる。「开」は「着」と共起する場合、動的状態の持続を表わすにも静的状態の持続を表わすにも用いることができるが、しかし、量的語句が出てきた場合、主として静的状態の持続を表わすことになる。現在進行中の動的状態の持続を表わすことができない。この点では3.1.における量的語句とは違っている。これは量的語句がその種類により動作の結果性を浮かび上がらせる機能を持つからである。

たとえば、「一道缝儿」はドアがちょっぴり開けられた状態の程度が小さいことを表わし、進行中の度合いではなく、動作が行なわれた後の結果としての静的状態の程度を明示しているものと思われる。そして、「一点」「一半」「一多半」などの語句はそれぞれその結果の程度の大小を強調し、静的状態の持続の程度を示している。(9)は僅か開いている状態、或いは少しぐらい開いている状態、(11)における「一半」の場合は半分ぐらい開いている状態、そして、(11)における「一多半」の場合は完全にではないが、大半開いている状態を示していると言える。これらの量的語句は「V＋着＋量的語句＋目的語」の構造に生起する場合、いずれも状態の結果性を明示するという文法的機能を付与されている。

ところが、(11)における「一半」「一多半」は、「开着一半门(ドアを半分くらい開けている)」「开着一多半门(ドアを半分以上開けている)」のように、「V＋着＋量的語句＋目的語」に生起することができるのに対し、(11)における「一道缝儿」「一点」は、「×开着一道缝儿

门(「ドアをちょっぴり開けている」の意)」「×开着一点门(「ドアを少し開けている」の意)」のように「V＋着＋量的語句＋目的語」に生起することができない。「一半」「一多半」はかなりの程度を表わす語句として、そのドアを開けていることの度合いを明確に示しており、「V＋着＋目的語」の構造によって受容されるものと思われるが、一方、「一道缝儿」「一点」は微量・少量を表わす語句として、主として動作による結果の程度を示しているので、動作の対象となる目的語を排斥しているものと思われる。動作の程度を表わす語句は、その種類によって用法も文法的機能も異なっている。しかし、四語は「×一道缝儿门(「ドアをちょっぴり」の意)」「×一点门(「ドアを少し」の意)」「×一半门(「ドアを半分くらい」の意)」「×一多半门(「ドアを半分以上」の意)」などのように「量的語句＋名詞」という構造に生起することができないという点では共通している。しかし、この点においては、3.1.における物の数量を表わす量的語句とは違っている。

日本語では〈ちょっぴり〉〈少し〉は微量・少量を表わす副詞として分類され、一方、〈半分〉〈半分以上〉は二分の一かそれ以上の数量・程度を表わす名詞として分類されているが、これらはいずれも数量を表わす語句として〈テイル〉と共起することができる。動作の微量・少量を表わす語句は「目的語＋ヲ＋量的語句＋Vテイル」という構造に用いられる場合、動的状態の持続はもとより、静的状態の持続をも表わすことができる。たとえば、(10)(12)では、量的語句による程度の大小にもかかわらず、ドアを開けているという動的状態の持続として捉えることができる。また、ドアを開けた後の結果としての静的状態の持続を捉えることもできる[11]。〈ちょっぴり〉〈少し〉と〈半分〉〈半分以上〉は品詞的には異なるものの、動的状態と静的状態における少量・多量を表わすことができるという点では共通しており、また、いずれも概略の数量・程度を表わしているという点でも同じである。そして動作の結果としての静的状態だけでなく、動作の進行中にある動的状態も捉えることができるという点では中国語の量的語句と大きく違っている。

また、受動表現の場合には動的状態と静的状態のいずれも捉えることができる。たとえば、「ドアが｛ちょっぴり／少し／半分くらい／半分以上｝開けられている」では、動作主は現れないものの、ドアを開けられているという動作の進行中とされる動的状態の持続も、ドアが開いているという動作完了後の結果としての静的状態の持続も捉えることができる。この点では、〈テイル〉は動的状態の持続を捉えることはできず、静的状態の持続だけしか捉えることができない中国語の「着」とは違っている。「着」は「×门被开着一道缝儿(「ドアが少し開けられている」の意)」のように、典型的な受動文では概略の数量・程度を表わす量的語句との共起が認められない[12]。この点においても、〈テイル〉は「着」と違っている。

日本語では、「ドアを｛ちょっぴり／少し／半分くらい／半分以上｝開けてある」のように、「目的語＋量的修飾語＋Vテイル」という構造に生起する場合は、動的状態の達成を強調し、動作直後の結果として持続していることを示す〈テアル〉で表現されることになる。〈テイル〉は動作直後の結果も表わすことができるが、ただ静的状態としての単純な結果を表わすだけに止まり、意図が想定できる望ましい状態の達成を表現することができない。これは〈テイル〉が意図・達成を表わす働きを持たないからである。それに対し、〈テアル〉は動作の意図と達成を表わす働きを持っている。〈テイル〉の場合は動的状態と静的状態の持続を表わすだけで、動作・行為の意図・達成を視野に入れることはない。〈テアル〉は、動作の意図･達成を視野に入れて、動的状態と静的状態における動作主の意図と目標実現への予期の達成を示唆している。「ドアが｛ちょっぴり／少し／半分くらい／半分以上｝開けてある」のように、〈ヲ〉が〈ガ〉に変わっても、強弱の差はあるものの、その状態の意図と達成は想定できる。これは〈テイル〉と〈テアル〉の根本的な違いであり、発話者の状態への視点の異なりの反映とも考えられる。

中国語では「门开开｛一道缝儿／一点／一半／一多半｝(ドアが｛僅かな隙間／少し／半分くらい／半分以上｝開けてある)」のように、動作の意図・達成を強調する場合、補語としての「开(～テアル)」が「V＋开＋量的語句」の構造に用いられる。この場合、動作の結果という静的状態の達成を強調し、その状態の持続を強調するわけではない。「开」は意図達成の結果を表わすだけで持続中の状態を捉えることができないからである。

3.3. 動作の回数との共起

「着」は動的状態を捉える時、動作の回数を表わす語句とは共起することができない。それに対し、〈テイル〉は動作の回数を表わす語句と共起することができる。

(13) ×跑着两圈。(「二周走っている」の意)〈＝(3)〉
(14) もう(グランドを)二周走っている。〈＝(4)〉
(15) ×(灯)灭着几次。(「(灯が)何回か消えている」の意)
(16) (灯が)何回か消えている。
(17) ×住着一次院。(「一回入院している」の意)
(18) 一回入院している。

「着」は動的状態を捉える時、動作の持続を表わし、捉えた時点ではその動的状態が運動の途中であることを示し、まだ終わっていないことを示唆する。しかし、数量や回数を表わす量的語句は、動作が実現された後

の結果としてその数量・回数を示している。それで、「着」と動作の数量・回数を表わす語句とは同じ構造において共起できないのである。また、(15)(17)のように静的状態を捉える時にも回数を表わす語句とは共起することができない。「跑」「下」などの動的状態を表わす動詞と、「亮」「灭」などの静的状態を表わす動詞は、「两圈」「几次」「几遍」「几下」などのような語句とは同じセンテンスに生起できない。

動的状態を表わす動詞と静的状態を表わす動詞はいずれも、「跑了(过)两圈(もう二周走った(ことがある))」「灯灭了(过)几次(灯が何回か消えた(ことがある))」「住了(过)一次院(一回入院した(ことがある))」[13]のように実現や経験を表わす「了」「过(guo/～たことがある)」とは共起できるが、動的状態と静的状態の持続を捉える「着」とは共起できない。例えば、「×拿着几次行李(「荷物を何回か持ち運んでいる」の意)」「×放着几次书(「書籍を何回か並べている」の意)」「×挂着几次地图(「地図を何回か掛けている」の意)」「×穿着几次毛衣(「セーターを何回か着ている」の意)」では、「着」が使われているから非文となっているが、「拿了几次行李(荷物を何回か持ち運んでいる)」「放了几次书(書籍を何回か並べている)」「挂了几次地图(地図を何回か書けている)」「穿了几次毛衣(セーターを何回か着ている)」のように、「了」か「过」に置き換えられると、適格となる。回数だけでなく、その他の動作量を表わす語句、たとえば、「×打着一拳(「一発ぶん殴っている」の意)」「×踢着一脚(「一発蹴飛ばしている」の意)」「×摸着一下(「ちょっと撫でている」の意)」における「一拳(一発)」「一脚(一発)」「一下(ちょっと)」も「着」とは共起できないが、しかし、「打了一拳(一発ぶん殴っている)」「踢了一脚(一発蹴飛ばしている)」「摸了一下(ちょっと撫でている)」のように「了」とは共起することができる。「了」は動作の完成・実現を表わす総括性というものがあり、実現された動作における数量を捉えることができるのに対し、「着」はひたすら持続の状態を捉えることになることから、動作の回数や数量を表わす語句と共起することができない。

「着」は動的状態に対しても静的状態に対しても、ひたすらその持続の局面を描写するだけにとどまり、その持続中の状態における量的概念を視野に入れることはできない。つまり、「着」は単なる持続の局面を対象として捉え、その持続中の状態が発生した回数や数量などを視野に入れることができない。この点では「了」「过」と異なっている。「了」「过」はすでに実現された状態、あるいは経験された状態における数量・回数などの概念も受容し、同じセンテンスに生起することができる。それらに対し、「着」は主として現在から将来までの持続中の状態を捉えることになり、数量や回数などを表わす語句の介在は許容できない。

〈テイル〉は動的状態に対しても静的状態に対しても、その持続中の状態を捉えることができるだけでなく、その持続中の状態に含まれた数量や回数なども捉えることができる。「一周走っている」「一遍読んでいる」「一度見ている」「一回書いている」のように、「量的語句＋動詞＋持続」の構造で使われる他、また、「一周走ってしまっている」「一遍読んでしまっている」「一度見てしまっている」「一回書いてしまっている」のように、完成を表わす「てしまう」との共起もできる。この場合は「量的語句＋動詞＋完成＋持続」の構造である。ただ静的状態を捉える時はもとより、その動的状態を捉える時も、動的状態の局面の持続ではなく、静的状態の局面(即ち結果)の持続を表わすことになる。量的語句が共起した場合、動的状態の持続の局面は、量的語句によって動的状態が実現されたその結果の持続を表わすようになる。このことから、量的語句は結果の持続を強調する役割を果たすことができると考えられる。工藤1982における量規定もこのことを指しているものと考えられる。

〈走る〉〈読む〉などの動的状態を表わす動詞は、前述した始動・持続・終結という三局面を示すと、始動の局面は「走り始めている」「読み始めている」のように、「動詞＋始動＋持続」という構造からなっているが、終結の局面は、「走り終わっている」「読み終わっている」のように「動詞＋終結＋持続」という構造からなっている。また、始動と終結の二局面はそれぞれ完成を表わす「てしまう」と共起することができる。「走り始めてしまっている」「読み始めてしまっている」は「動詞＋始動＋完成＋持続」という構造であり、「走り終わってしまっている」「読み終わってしまっている」は「動詞＋終結＋完成＋持続」という構造である。

動作の回数を表わす語句は、動的状態の回数量を規制し、その局面における結果を表わすことになるから、「?一周走り始めている」「?一遍読み始めている」のように始動の局面と共起すると、不自然な感じのする場合がある。これは、始動の局面は、「量的語句＋動詞＋始動＋持続」からなっており、開始の段階にあり、まだ結果が出る段階にはなっていないということである。また、「量的語句＋動詞＋始動＋完成＋持続」という場合も結果を出す段階にはなっていないので、量的語句とは共起しにくい。たとえば、「?一回走り始めてしまっている」「?一遍読み始めてしまっている」などがそれである[14]。一方、終結の局面は、動的状態の結果を表わす局面であり、〈テイル〉は「一周」「一遍」「一度」「一回」などの量的語句と共起することによる許容度が高いと考えられる。「一回走り終わっている」「一遍読み終わっている」のように共起することができる。これは「量的語句＋動詞＋終結＋持続」という構造からなっている。また、完成を表わす「てしまう」と共起し、「一回走り終わってしまっている」「一遍読み終わってしまっている」のように「量的語句＋動詞＋終結＋完

成＋持続」という構造も構成することができる。〈テイル〉は持続の局面・終結の局面・完成の局面のいずれも捉えることができるから、非常に広い共起範囲を持っている。持続・終結の二局面及び持続・終結＋完成という複合的な局面を捉えることによって、それぞれの持続の状態を明示することになる。この点では中国語の「着」と違っている。

しかし、〈テイル〉は、「走り続けている」「読み続けている」のように、「動詞＋連続＋持続」という構造であり、動作の連続的な持続を表わすことができる。だが、「×一回走り続けている」「×一遍読み続けている」のように、その構造内部に量的語句が入ると、〈テイル〉は連続的持続の局面を捉えることができなくなる[15]。前述の通り、動的状態を表わす動詞は、量的語句と共起する時、静的状態の結果を表わすようになる。一方、「動詞＋連続＋持続」の場合は、その静的状態の結果ではなく、動的状態の連続的な持続を表わすことになるので、回数を表わす量的語句の介在が許容されない。例えば、「走り続けている」は、走行という動的状態を連続的に持続させており、走行による結果を示すわけではない。一方、「一回」は「一回走っている」のように、走行の回数を表わし、走行の結果を示唆する。そのため、「走り続けている」という連続的な持続の動的状態と「一回」という静的状態の結果とは互いに矛盾してしまうのである。量的語句は持続している動的状態の結果の数量を表わすから、動的状態の連続的な持続の局面を捉える〈テイル〉のその働きを制限することになる。〈テイル〉は量的語句と共起する時、動的状態を静的状態に変える働きを持っていると言える。この点については従来の研究ではあまり言及されていない。

3.4. 動作の時間量・距離量との共起

「着」は動作の時間量・距離量を表わす語句と共起することができない。それに対し、〈テイル〉は動作の時間量・距離量を表わす語句と共起することができる。

(19) ×他跑着三个小时。(「彼は三時間走っている」の意)

(20) 彼は三時間走っている。

(21) ×他跑着三十公里。(「彼は三十キロ走っている」の意)

(22) 彼は三十キロ走っている。

中国語では、「着」は動的状態の持続を表わし、動作・行為の進行中であることを強調するのに用いられる。一方、時間量・距離量を表わす語句は、動作・行為の結果としての時間・期間・距離・長さなどを表わすことになり、持続の状態を主要な把握の対象とする「着」によっては捉えることができないから、同じセンテンスにおいては共起することができない。中国語では、時間量・距離量を表わす語句は、「他跑了(过)三个小时(彼は三時間走った(ことがある))」「他跑了(过)三十公里(彼は三十キロ走った(ことがある))」のように、通常、動作・行為の実現・経験を表わす「了」「过」によって捉えることできる。「了」「过」は動的状態の実現・経験を表わすから、その動的状態実現後の結果あるいは経験された動的状態の結果としての時間量・距離量を表わす語句と共起することができる。

「他跑了三个小时(彼は三時間走った)」における「三个小时(三時間)」は、(彼が)三時間走ったという走行の時間量を走行の結果について示しており、三時間走ったり、走り続けたりしているという動的状態の時間の持続を表わしているわけではない[16]。一方、「他跑了三十公里(彼は三十キロ走った)」における「三十公里(三十キロ)」は、三十キロ走ったという走行の距離量を走行後の結果として示しており、三十キロ走ったり、走り続けたりしているという動的状態の時間の持続を表わしているわけではない。「了」「过」は時間量・距離量を表わす語句と共起することによって、実現されたり経験されたりした動的状態を静的状態として捉え、その状態の結果を明示することになる。両語はいずれも状態の結果を明示する働きを持っているので、時間量と距離量を表わす語句と共起することができる。この点では「着」と違っている。

〈テイル〉は、(20)(22)のように「三時間」のような時間量を表わす語句と「三十キロ」のような距離量を表わす語句と共起し、走行という動的状態における時間量と距離量を捉えることができる。このような場合は、時間量・距離量を表わす語句と共起しているから、主として「走っている」という動的状態の結果としての量性を捉えている。〈テイル〉は時間量と距離量を捉えることができるという点では、「着」と異なり、〈タ〉〈タコトガアル〉に対応すると見られる「了」「过」とよく似ている。「了」「过」と〈タ〉〈タコトガアル〉は、動的状態が実現されたり・経験されたりした後の結果を表わすのみであり、その結果の持続を表わすことができないのに対し、〈テイル〉はその結果の持続を表わすことができる。

〈テイル〉は「三時間走ってしまっている」「三時間走り続けている」「三時間走り続けてしまっている」のように、「時間量＋動作＋完成＋テイル」と「時間量＋動作＋連続＋テイル」に用いられる他、また、「三十キロ走ってしまっている」「三十キロ走り続けている」「三十キロ走り続けてしまっている」のように、「距離量＋動作＋完成＋テイル」「距離量＋動作＋連続＋テイル」「距離量＋動作＋連続＋完成＋テイル」にも用いることができる。完成の状態の持続、連続の状態の持続、そして連続の完成の状態の持続を捉えることができる上に、それぞれの状態における時間量・距離量を捉えることができるという点についていえば、〈テイル〉は様々な

量性を取り入れることのできる広い受容性を持っており、持続した動的状態における時間量・距離量を明示することができる。つまり、〈テイル〉は完成の側面の持続、連続の側面の持続、連続＋完成の側面の持続を明示する文法的機能を与えられているから、各々の側面の性質を捉えることができるし、また、各々の側面の性質を網羅した、結果としての状態の時間・距離を捉えることもできる。

前述の「三時間走ってしまっている」「三時間走り続けている」「三時間走り続けてしまっている」の場合は、中国語では、「跑完了(过)三个小时」「连续跑了(过)三个小时」「连续跑完了(过)三个小时」のように、そして、「三十キロ走ってしまっている」「三十キロ走り続けている」「三十キロ走り続けてしまっている」の場合は、「跑完了(过)三十公里」「连续跑了(过)三十公里」「连续跑完了(过)三十公里」のように、「着」のかわりに「了」か「过」によって時間量と距離量を捉えることになる。「了」「过」は時間量と距離量を捉えることができるとはいえ、実現されたり経験されたりした時間量・距離量を捉えることができるだけにとどまり、持続した時間量・距離量を捉えることができないという点では〈テイル〉と違っている。

4. まとめ

両語は物の数量・動作の概略の程度を表わす語句と共起し、持続中の動的状態と静的状態における対象物の多様な量性を捉えることができるという点では大体共通しているが、しかし、動作の回数や時間、および各局面における回数や時間などを表わす語句とも共起し、動的状態と静的状態における回数量・時間量・距離量を捉えることができ、始動・連続・終結という各局面と完成という局面の持続を示すことができるという点では、〈テイル〉は「着」と大きく違っている。

「着」は人間や物の数量・動作の概略の程度を表わす語句と共起することによって、持続中の動的状態と静的状態における対象物の多様な量性を捉え、動的状態と静的状態がそれぞれ係る対象物の数量と程度を強調することができる。しかし、動的状態と静的状態における回数量・時間量・距離量などを捉える文法的性質が持たれておらず、結果性を提示するだけの意味機能が付与されていないため、持続中の動的状態と静的状態そのものの量性については捉えることができない。

〈テイル〉は持続中の動的状態と静的状態における対象物の多様な量性を捉えることができる他、また持続中の動的状態と静的状態のそのものだけの多様な量性をも捉えることができる。つまり、動的状態と静的状態がかかっている対象物の数量、程度の有様も、動的状態と静的状態のそのものだけにおける数量・時間も視野に入れることができる。さらに、動的状態における各局面の数量・時間も捉えることができるので、強い意味機能が持たれていると考えられる。

注

1)、本研究では中国語の考察語は「　」、日本語の考察語は〈　〉で示すが、短文を並べるときには「　」を使う。以下同じ。

2)、拙稿「「V＋着」と〈V＋テイル〉について」(近刊)では、先行研究を踏まえながら、動的状態の持続、持続の時間範囲、運動過程の各局面および静的状態の持続などを表わす場合における「V＋着」と〈V＋テイル〉の意味と用法について考察した。詳しくは拙稿「「V＋着」と〈V＋テイル〉について」(近刊)を参照されたい。

3)、例文の中では考察語の「着」と〈テイル〉については下線を引く。以下同じ。

4)、「着」についての先行研究は、他にもあるが、ここでは代表的なものだけを挙げておく。

5)、ここではごく簡単に紹介するだけにとどまり、詳しくは馬氏の論文を参照されたい。

6)、これらの研究はいずれも重要なものであるが、本研究と関係したものだけを参考文献として挙げている。

7)、小矢野哲夫1997は時点格、期間格、起点格の三種類を立て、それらと各局面の持続との関係について述べている。詳しくは氏の論文を参照されたい。

8)、後述するように、動作の継続という用法は本研究の動的状態の持続という用法に相当し、そして変化の結果の継続という用法は本研究の静的状態の持続という用法に相当する。以下は詳しく述べることとする。

9)、以下では、動的状態と静的状態について述べているので、参照されたい。

10)、〈走る〉は自動詞であり、「車が走る」のように〈ガ〉格を取るが、〈走らせる〉という使役形を取ると、「車を走らせる」のように〈ヲ〉を取ることができる。

11)、ただ、他動詞である「開ける」に対応する自動詞「開く」は「ドアが{ちょっぴり/少し/半分くらい/半分以上}開いている」のように、静的状態の持続だけしか表わすことができない。これは自他による違いであり、数量・程度を表わす量的語句と共起できるという点では共通している。

12)、中国語では典型的な受動文として「対象語＋被＋仕手＋動詞」の構造で「他被朋友叫去了(彼は友達に呼ばれていった)」のように「被」が用いられるが、対象語が主語の位置に立つ場合は、「门开着(ドアが開けられている)」のように受動文の一種として認められる。この場合は「被」が用いられなくなるのである。

13)、中国語では周知の通り、「住院(入院する)」「搬家(引っ越す)」のような動詞は離合詞として分類され、「住＋院(入＋院する)」「搬＋家(引っ越しをする)」のように、「住」「搬」は動詞としてそれぞれ目的語の「院」「家」をとっていると思われる。普通はくっ付く形で用いられるが、「了」「过」のようなテンスやアスペクトを表わす助詞や「一次(一回)」「一个小时(一時間)」のような数量、時間を表わす語句が来る場合、「×住院了一次(「一度入院している」の意)」「×搬家过几次(「何回か引っ越している」の意)」のように、その動詞全体が量的語句を受け入れるのではなく、「住了一次院(一度入院している)」「搬过几次家(何回か引っ越している)」のように、「動詞＋助詞＋量的語句＋目的語」という構造で用いられることになる。そのため、離合詞として分類されるの

である。この種類の動詞はまた「入学(入学する)」「结婚(結婚する)」「离婚(離婚する)」「毕业(卒業する)」「入学(入学する)」「出院(退院する)」などが挙げられる。

14)、 日本語の例文については、日本人話者による判定のアンケート調査を実施した。以下は「◎アンケート調査の結果」で示しておく。アンケート調査の結果によると、「量的語句＋動詞＋持続」の場合は自然度が高いが、しかし、「量的語句＋動詞＋完成＋持続」の場合は自然度が若干下がる。そして、「量的語句＋動詞＋始動＋持続」(⑨⑩⑪⑫)より、「量的語句＋動詞＋終結＋持続」(⑬⑭⑮⑯)のほうがはるかに自然度が高い。これは「量的語句＋動詞＋終結＋持続」の場合は結果を表わしやすいという点と関係があり、そして「量的語句＋動詞＋始動＋持続」の場合は、その意味により、結果を表わしにくいという点と関係があると考えられる。

15)、 小矢野哲夫1977では、「テシマウ」は「彼は三時間走り始めてしまう」「彼は三時間走り終わってしまう」のように時間格において〈テイル〉と共起することができると述べているが、ただ回数を表わす語句と共起できるかどうかについては言及していない。詳しくは氏の論文を参照されたい。

16)、 連続的持続の局面の場合は、動作が進行中であることを示すので、量規制を受け入れることが難しいと考えられるから、量的語句と共起しくいものと思われる。

◎アンケート調査の結果

ここに挙げた日本語の例文がセンテンスとして成立するかどうかについて、25名の日本人話者(年令18歳～20歳、男性10人、女性15人、いずれも国立大学の在学生である)にアンケート調査を実施して判定していただいた。

調査の基準は以下の通りである。日本語として非常に自然だと思うものは〈○〉、やや不自然な感じがするものの、言わないことはないと思うものは〈？〉、日本語としては非常に不自然でほとんど言わないと思うものは〈？？〉、そして絶対誰も言わないと思うものは〈×〉と記入するように依頼した。以下それぞれその結果を示す。

①（選手達はグランドを）一周走っている。
〔回答者25名：○21人　？3人　??1人　×0人〕
②（この小説を）一遍読んでいる。
〔回答者25名：○11人　？11人　??3人　×0人〕
③（韓国のテレビドラマを）一度見ている。
〔回答者25名：○21人　?3人　??0人　×1人〕
④（小論文を）一回書いている。
〔回答者25名：○11人　??8人　??4人　×2人〕
⑤（選手達はグランドを）一周走ってしまっている。
〔回答者25名：○11人　？6人　??4人　×4人〕
⑥（この小説を）一遍読んでしまっている。
〔回答者25名：○14人　?5人　??3人　×3〕
⑦（韓国のテレビドラマを）一度見てしまっている。
〔回答者25名：○14人　?8人　??2人　×1人〕
⑧（小論文を）一回書いてしまっている。
〔回答者25名：○11人　??9人　??5人　×0人〕
⑨（選手達はグランドを）一周走り始めている。
〔回答者25名：○7人　?11人　??6人　×1人〕
⑩（この小説を）一遍読み始めている。
〔回答者25名：○9人　?9人　??4人　×3人〕
⑪（韓国のテレビドラマを）一度見始めている。
〔回答者25名：○5人　?10人　??6人　×4人〕
⑫（小論文を）一回書き始めている。
〔回答者25名：○7人　?8人　??8人　×2人〕
⑬（選手達はグランドを）一周走り終わっている。
〔回答者25名：○19人　?2人　??3人　×1人〕
⑭（この小説を）一遍読み終わっている。
〔回答者25名：○18人　?5人　??1人　×1人〕
⑮（韓国のテレビドラマを）一度見終わっている。
〔回答者25名：○18人　?6人　??1人　×0人〕
⑯（小論文を）一回書き終わっている。
〔回答者25名：○17人　?6人　??2　×0人〕
⑰（選手達はグランドを）一周走り始めてしまっている。
〔回答者25名：○5人　?11人　??4人　×5人〕
⑱（この小説を）一遍読み始めてしまっている。
〔回答者25名：○7人　?8人　??7人　×3人〕
⑲（韓国のテレビドラマを）一度見始めてしまっている。
〔回答者25名：○6人　?9人　??7人　×3人〕
⑳（小論文を）一回書き始めてしまっている。
〔回答者25名：○7人　?7人　??10人　×1人〕
㉑（選手達はグランドを）一周走り終わってしまっている。
〔回答者25名：○17人　?2人　??3人　×3人〕
㉒（この小説を）一遍読み終わってしまっている。
〔回答者25名：○19人　?1人　??3人　×2人〕
㉓（韓国のテレビドラマを）一度見終わってしまっている。
〔回答者25名：○19人　?2人　??4人　×0人〕
㉔（小論文を）一回書き終わってしまっている。
〔回答者25名：○18人　?3人　??3人　×1人〕
㉕（選手達はグランドを）一回走り続けている。
〔回答者25名：○1人　?3人　??4人　×17人〕
㉖（この小説を）一遍読み続けている。
〔回答者25名：○3人　?4人　??8人　×10人〕
㉗（韓国のテレビドラマを）一度見続けている。
〔回答者25名：○1人　?2人　??8人　×14人〕
㉘（小論文を）一回書き続けている。
〔回答者25名：○0人　?3人　??7人　×15人〕
㉙（選手達はグランドを）一回走り続け始めている。
〔回答者25名：○0人　?1人　??5人　×19人〕
㉚（この小説を）一遍読み続け始めている。
〔回答者25名：○1人　?1人　??5人　×18人〕
㉛（韓国のテレビドラマを）一度見続け始めている。
〔回答者25名：○0人　?2人　??5人　×18人〕

㉜（小論文を）一回書き続け始めている。
〔回答者25名：○0人　?2人　??5人　×18人〕
㉝（この選手は）三十キロ走っている。
〔回答者25名：○24人　?0人　??1人　×0人〕
㉞（この選手は）三十キロ走り続けている。
〔回答者25名：○2人　?1人　??20人　×2人〕
㉟（この選手は）三十キロ走り始めている。
〔回答者25名：○7人　?9人　??9人　×0人〕
㊱（この選手は）三十キロ走り終わっている。
〔回答者25名：○24人　?0人　??0人　×1人〕
㊲（この選手は）三十キロ走ってしまっている。
〔回答者25名：○20人　?2人　??2人　×1人〕
㊳（この選手は）三十キロ走り始めてしまっている。
〔回答者25名：○7人　?9人　??5人　×4人〕
㊴（この選手は）三十キロ走り続けてしまっている。
〔回答者25名：○10人　?5人　??8人　×2人〕
㊵（この選手は）三十キロ走り終わってしまっている。
〔回答者25名：○19人　?5人　??1人　×0人〕
㊶コーチは部員を一度走り始めさせてしまっている。
〔回答者25名：○11人　?4人　??4人　×6人〕
㊷コーチは部員を一度走り終わらせてしまっている。
〔回答者25名：○10人　?10人　??4人　×1人〕
㊸部員はコーチに一度走り始められてしまっている。
〔回答者25名：○2人　?3人　??5人　×15人〕
㊹部員はコーチに一度走り終わられてしまっている。
〔回答者25名：○0人　?3人　??7人　×15人〕
㊺部員はコーチに走り始めさせられている。
〔回答者25名：○9人　?7人　??5人　×4人〕
㊻部員はコーチに走り続けさせられている。
〔回答者25名：○9人　?3人　??4人　×9人〕
㊼部員はコーチに走り続けさせてしまっている。
〔回答者25名：○7人　?4人　??7人　×7人〕
㊽部員はコーチに一度走り終わらされている。
〔回答者25名：○11人　?2人　??5人　×7人〕
㊾コーチは部員を走らせ続けてしまっている。
〔回答者25名：○3人　?5人　??2人　×15人〕
㊿部員はコーチに一度走り続け終わられてしまっている。
〔回答者25名：○0人　?0人　??5人　×20人〕
51この選手は三時間走っている。
〔回答者25名：○25人　?0人　??0人　×0人〕
52この選手は三時間走り続けている。
〔回答者25名：○25人　?0人　??0人　×0人〕
53この選手は三時間走り続けさせられている。
〔回答者25名：○19人　?4人　??2人　×0人〕
54この選手は三時間走ってしまっている。
〔回答者25名：○0人　?13人　??4人　×8人〕
55この選手は三時間走り始めている。
〔回答者25名：○13人　?6人　??5人　×1人〕
56この選手は三時間走り終わっている。
〔回答者25名：○0人　?5人　??11人　×9人〕

参考文献

中国語

北京大学中文系1955･1957级语言班编《现代汉语虚词例释》商务印书馆1982
戴耀晶「现代汉语持续体“着”的语义分析」邵敬敏主编《九十年代的语法思考》北京语言学院出版社1994
方　梅「宾语与动量词语的次序问题」《中国语文》第一期1993
费春元「说“着”」《语文研究》第二期1992
金立鑫「“着”“了”“过”时体意义的对立及其句法条件」《第七届国际汉语教学讨论会论文集》北京大学出版社2004
李宇明《汉语量范畴研究》华中师范大学出版社2000
刘一之《北京话中的“着”(zhe)字新探》北京大学出版社2001
吕叔湘主编《现代汉语八百词》商务印书馆1984
石毓智「论汉语的进行体范畴」《汉语学习》第三期2006
王学群『中国語の“V着”に関する研究』白帝社2007
张　黎《汉语意合语法研究》白帝社2012
周　娟《现代汉语动量词与动词词组组合研究》暨南大学出版社2012

日本語

江田すみれ『「ている」「ていた」「ていない」のアスペクト』くろしお出版2013
奥田靖雄「アスペクトの研究をめぐって―金田一的段階―」『宮城教育大学国語国文』8号1977
紙谷栄治「「ている」について」『語文』37輯1980
金田一春彦「国語動詞の一分類」金田一春彦編1976『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房1950
工藤真由美「シテイル形式の意味記述」武蔵大学『人文学会雑誌』13巻4号1982
小矢野哲夫「動詞「走る」を中心とする述語のアスペクトとテンス―アスペクト・テンス考察の一視点―」『国語学研究』17東北大学文学部1977
仁田義雄「動詞の意味と構文―テンス・アスペクトをめぐって―」『日本語学』1巻2号1982
藤井　正「『動詞＋ている』の意味」金田一春彦編1976『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房1976
矢澤真人「情態修飾成分と〈シテイル〉の意味」『日本語学』22号1985
吉川武時「現代日本語動詞のアスペクトの研究」金田一春彦編1976『日本語動詞のアスペクト』むぎ書房1976
吉川妙子『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋書房2012
吉田茂晃「シテイル形式の意味分化の原理」『日本語学』6号1989

謝辞

本研究は第五届漢日対比語言学研討会第8分科会で発表した原稿に加筆修正したものである。当日、司会の方をはじめ会場で発言された方々に厚くお礼を申し

上げる。

（2013年9月30日受理）